

私の内弟子体験

ジャスティン・マーチャント



私は合気道を始めて十三年になりますが、ここ二年は仕事に追いやられ稽古が少ない状態が続いていました。

勉学に努め、化学技術者としての仕事に打ち込み、色々な面で自分の仕事を楽しむことができるようにはなりましたが、仕事を追求するために合気道の稽古を削っていく、という方向は、私自身の人生に進んでもらいたい方向ではありませんでした。

しばらく熟考の末、人生転換のためのステップが必要だとの結論に達しました。

日本に行き、小林先生と弘明先生の下で、内弟子修行を行える、ということでしたので、仕事を辞め、私の愛する合気道に時間を捧げようと決心しました。

既に内弟子体験のあるジェフ・ミルズに彼の経験について何度も話してもらっていたので、内弟子の生活は幾度となくある掃除と早起きが含まれている、と想像していました。

イギリスを出発する直前まで、仕事に追われた状態が続き、日本行きのための準備がほとんどできませんでしたので、それはもう小林先生を信じて思い切って飛び込むような感じでした。

生活に突然で劇的な変化が起こる、ということは明らかでしたので、「今更あたふたしても仕様がなし、心を広く持ち、一つでも多くのことを吸収しよう」と腹を決めました。

しかし、空港で出国ゲートをくぐる時点になって、自分が踏もうとしているステップの大きさから、一瞬「ああ、自分は何て大それたことをしようとしているのだろう」との思いが過りましたが、それはすぐにこれから始まるであろう冒険への期待感へと取って代わりました。

日本にいた三ヶ月の間にとってもたくさんの経験をしました。数え上げると限りませんが、合気道の稽古、文化の違い、生活習慣の違い、さまざまな場所、そして、最も重要なのは沢山の人の出会いです。

合気道の稽古について言えば、激しい運動には慣れていたので、稽古に何時間も出ることには問題ありませんでしたが、自分自身に起こった最大の(そして思いもよらなかった)住み込みの効果は、朝早く夜遅い生活による、恒久的な睡眠不足状態の感覚でした。

稽古の時間割を見ると、休憩し疲れを回復する時間があるように見えますが、稽古前の掃除、お茶の時間、そして稽古の後の自習時間等に時間が費やされるので、自分自身のための時間はあまりありません。

稽古の無い休みの日でも、朝七時半までには起きて道場の掃除をしなければなりません。

内弟子になると道場のことが自分自身の生活となります。道場、先生、そして会員の人たちのことがまず第一で、自分自身のことは最後になります。

しかし、それでも他の人々のために奉仕する、ということからはとても大きな満足感を得ることができるので、内弟子になることによって睡眠や自分のための時間が少なくなる、ということに不平はありませんでした。

実際はその反対で、沢山の人達に幸せをもたらす事業の一端になる、という感覚は例えようのない充実感を私に与えてくれました。

結局のところ、私の滞在をこんなに楽しいものしてくれたのは、私が奉仕したこれらの沢山の人達の優しさと親しみやすさでした。

小林先生と弘明先生は受け入れ側の代表として、私のスケジュールがとても楽しい稽古と興味深い活動で満たされるように、気遣って下さり、毎週毎週新しいことの連続でした。

笠原さんは私が快適に生活できるよう、何かと世話をしてくれました。

そして、指導部の先生方、同時期に住み込んだ内弟子仲間たち、一緒に稽古する機会が持てた会員の方々と、私がお世話になった人達はたくさんいます。

場所も、小平と所沢道場だけでなく、岩井合宿、孺恋、橋本、黒部、府中、田無、立川、草加、板橋と、数え上げるときりがありません。

どこへ行っても友人ができ、稽古中も稽古後も、とても楽しい時を過ごすことができ、沢山のことを学びました。

道場での生活はとても貴重な経験で、この三ヶ月間住み込むことができたことを非常に光栄に思います。

日本に住むほとんどの西洋人が見過ごしている「本当の」日本の生活と文化に触れることができたと感じています。

私はこの文章を日本での最後の日に書いています。三ヶ月たった今、私が今いるこの所沢道場が自分の家のように感じられます。

イギリスに戻ると「逆カルチャーショック」を受けることでしょう。

新しい仕事が始まるまで二三週間ほど休みがあるので、今現在「転換期」にありますが、もし戻るべき仕事が無ければもっと長く日本に居たことでしょう。

いろいろなものがすでに懐かしく感じられます 合気道の稽古、日本食、熱いお風呂、時間通りに運行される電車、あったかいココアが出てくる自動販売機、自転車の傘差し運転、とても礼儀正しい店員、そしてすべての新しい友人たち…。

また近いうちに日本に行きたいです。皆さんと再会する時のため、日本語の勉強は続けていきます。

どうもありがとうございました。

